



鳴門に吹く「いい風」が、愛する「まち」を育てます



#むやるんじよ



鳴門市まちなか未来ビジョン

2026.5

■まちなか未来ビジョンに込めた思い

かつて、鳴門のまちなかには、特別な用事がなくても人が自然と集い、顔を合わせ、言葉を交わす場所がありました。しかし、時代とともに、暮らし方や移動手段、買い物や交流の場は多様化し、人が集まる場は次第にまちの外へと移っていきました。その背景には、郊外化の進行のみならず、駅とまちなかの関係、動線のあり方、都市機能の配置といった、都市構造上の課題があります。

このままでよいのか

このまちの未来を、10年先を見据え、50年先を展望するとき、先人たちが積み重ねてきたこのまちを、次の世代へどのような形で引き継ぐのか。その問いを出発点として、本ビジョンは描かれています。

変化は静かに始まり「いい風」へ

駅やまちなかを変えれば、まちが一気に変わるわけではありません。大切なのは、通過するだけの場所となっている空間に、人が立ち止まり、関わり、過ごすきっかけをつくること。そこから生まれる小さな変化が、人の気持ちを動かし、まちに前向きな“いい風”を吹かせていきます。

「おすそ分け」のように広がる

暮らす人自身が暮らし楽しみ、若者をはじめとする市民の居場所を起点に活気が生まれ、魅力となり、「おすそ分け」のように広がり、関わる人、訪れる人が少しずつ増えていく。通過点となっているまちなかを、行ってみたい目的地へ。日常の延長にある場所を、過ごしたくなる場所へ。未来に向けて、人の流れや賑わいをまちに取り戻していくことが、この未来ビジョンに込めた思いです。

様々な主体を巻き込み、動き出す鳴門の新たな未来

こうした未来を実現するためには、市民、事業者、行政など、鳴門に関わる熱意ある人々が、対話を重ね、様々な主体を巻き込み連携し、ともに動き、まちに“いい風”を吹かせます。その指針となるのが、このビジョンです。

■まちなかの特徴と課題

ポテンシャルと構造的課題が併存するまちなかの現在

鳴門駅周辺および隣接エリアには、商店街に加え、県立高校や小中学校が立地しているほか、阿波踊りや撫養街道、撫養川、徳島ヴォルティスのホームスタジアムなど、歴史、自然、文化に関わる多様な地域資源が点在しています。一方で、駅周辺には都市構造上の課題があり、学生や来訪者が立ち寄ろうと思える場所が少なく、空き家や低未利用地が多く、回遊性が生まれておらず、まちの中心としての機能を十分に果たせていません。地域が持つポテンシャルと、都市構造の転換や民間・地域の取組み等を掛け合わせながら、新たなまちづくりに取り組む必要があります。



豊かな地域資源×都市コンテンツの創出

駅周辺での交流機能導入や社会実験等を通じた「くつろぐ」「学ぶ」「話せる」「楽しむ」が包括された空間の創出



都市構造の見直し×コアの活性化

駅と商業エリアの関係、鉄道軌道と主要幹線等の都市構造の見直し、まちのコアの活性化、ウォークアブルなまちづくり



エリアポテンシャル最大化×公民連携

各エリアの特徴を活かしたまちづくり、公民連携手法によるエリア価値の向上、地域アイデンティティの醸成

■コンセプト

鳴門に吹く“いい風”が、愛するまちを育てます

かつて賑わいを見せたまちなかも、人の流れや都市構造が変わり、様々な課題が顕在化しています。これからの中心市街地では、「まちなかで時間を過ごしたい」と感じられる魅力的な空間をつくり、新たな賑わいを生み出していくことが求められています。そのために、鳴門らしさを大切にしながらまちに新しい発想や活動を呼び込み、人と人、人と場所を結びつける“いい風”を吹かせていきます。

人々がまちなかに“つどい”、楽しさや心地よさを感じることで、活動や交流が、過去から未来へ、若い世代へと“つながり”、地域への愛着や新たな活動が“育まれ”ていきます。

そして、周辺へと流れていた人の流れを、まちなかに新たな渦のように呼び込み、中心から周囲へと魅力を広げていきます。楽しい暮らしを“おすそ分け”する。鳴門らしさでまちを育てていきます。

若い世代をはじめ、多様な人がつどい、関わる場を生み出します。



人や活動、想いを世代を超えてつなぎ、新たな活動を生み出します。



暮らしの楽しさや小さな挑戦をそだて、まちへの愛着を深めます。

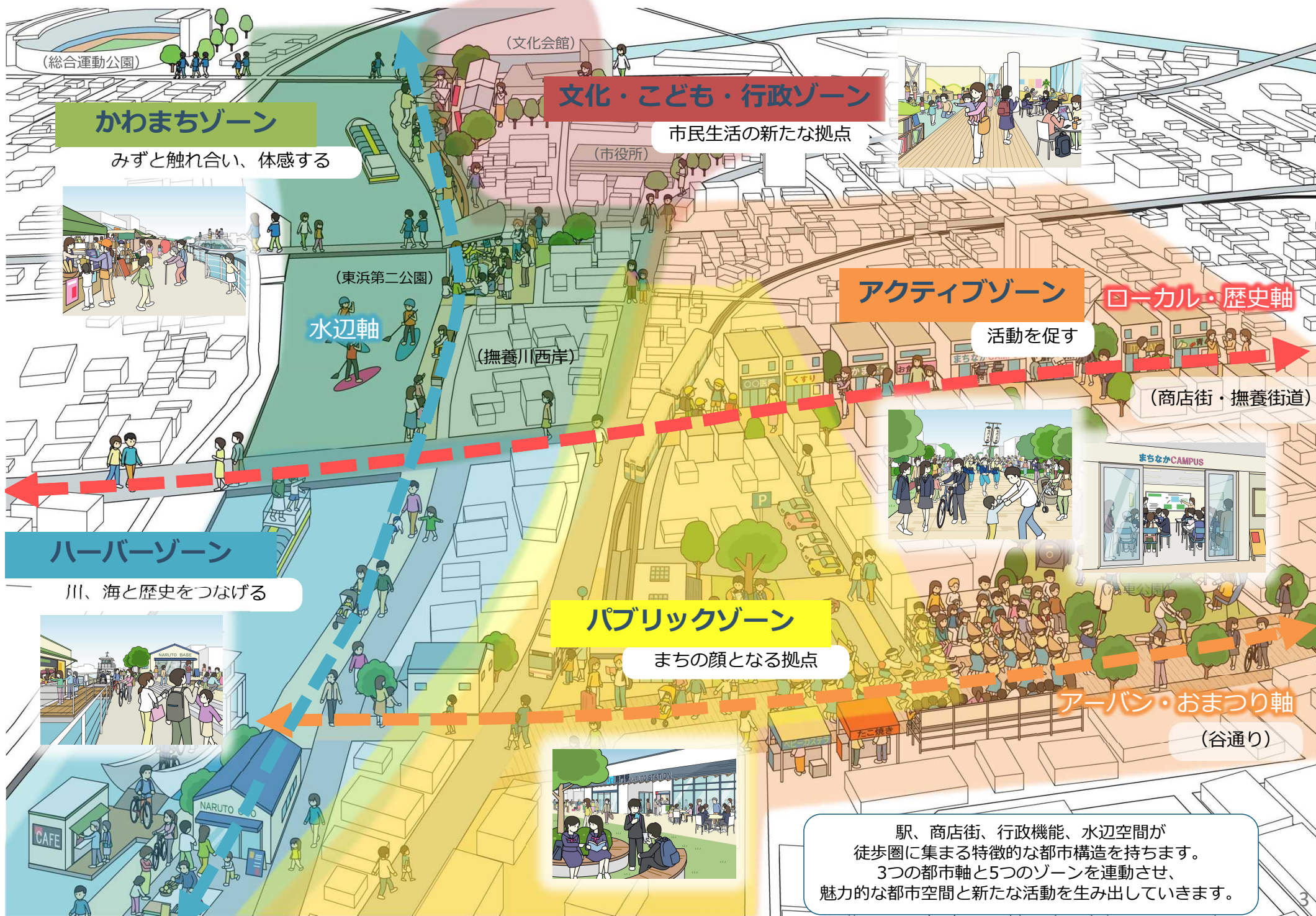


■基本方針

- 若者に支持される“わくわくするまちなか”を目指す
未来を担うのは彼ら。まちを使う彼らの声を大事にちょっと寄りたい、時間を過ごしたいと思えるまちなかに変えていく
- 進化する都市構造から“エリア価値の向上”を図る
まちのコアの移転から生み出す新たな鳴門の顔
東西都市軸の強化や新たな水辺軸の形成により、まちの価値を引き上げる
- コンテンツの整備・誘導により“人が溜まる”空間をつくる
コアにまちの元気を触発するコンテンツを誘導する
中心市街地や鳴門駅のポテンシャルを引き出す周辺整備を進める
- 公と民が連携し“まちを動かす人材”を育てる
公共空間を拠点に、まちの賑わいを生み出す活動を広げる
社会実験を通じて、新たな人材によるまちの使い方を育てる
- 地域の魅力とまちをつなぎ“鳴門らしさ”のある街を生み出す
個性あるゾーンの形成により、個性あるまちづくりを進める
歴史や文化などの地域資源を活かし、鳴門らしい魅力を紡いでいく



■エリアビジョン



(総合運動公園)

かわまちゾーン

みずと触れ合い、体感する

(東浜第二公園)

水辺軸

(撫養川西岸)

(文化会館)

文化・こども・行政ゾーン

市民生活の新たな拠点

(市役所)

アクティブゾーン

活動を促す

ローカル・歴史軸

(商店街・撫養街道)

ハーバーゾーン

川、海と歴史をつなげる

パブリックゾーン

まちの顔となる拠点

アーバン・おまつり軸

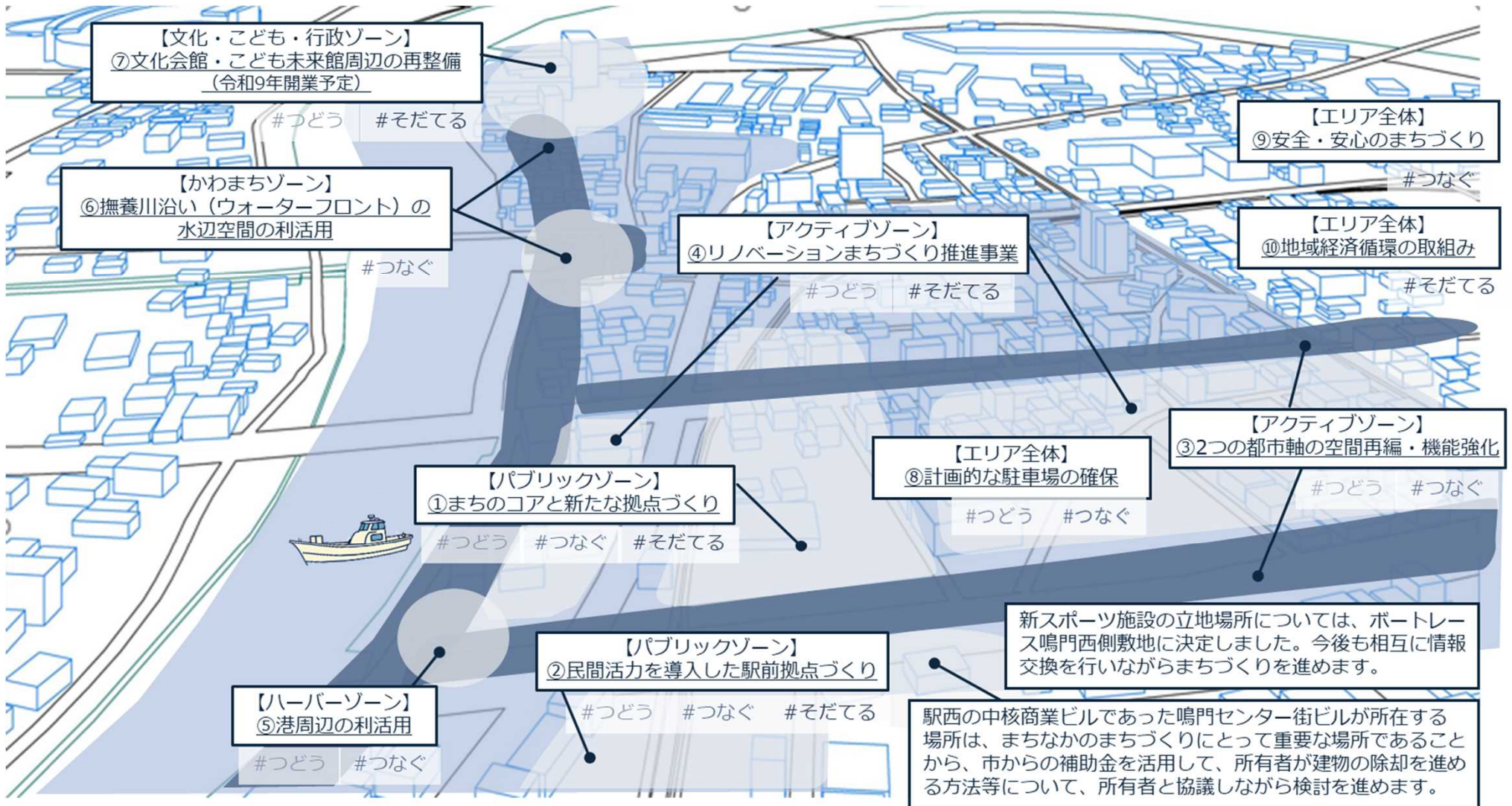
(谷通り)

駅、商店街、行政機能、水辺空間が徒歩圏に集まる特徴的な都市構造を持ちます。3つの都市軸と5つのゾーンを連動させ、魅力的な都市空間と新たな活動を生み出していきます。

■各エリアの具体的な取組み

人々が“つどう”仕掛けを軸で“つなぎ”、若者とともにまちを“そだてる”

都市構造の転換と新駅舎の整備を契機に、2つの東西軸や撫養川沿いの空間再編、公共施設の建て替えや改修などのエリア周辺の取組みを掛け合わせ、賑わいの創出やエリア価値創出の取組みを進めていきます。



#むやるんじょ

むやるんじょは、本市の中心地である撫養の地名に、方言の「～じょ」を併せた、本プロジェクトのキーワードです。

撫養は、舟を「つなぐ」を意味する「もやう」が語源とされていることから、人や事業者・行政など、まちづくりに関わる様々な主体をつなぐという意味と「まちなかでやろうよ」との意味を持たせています。

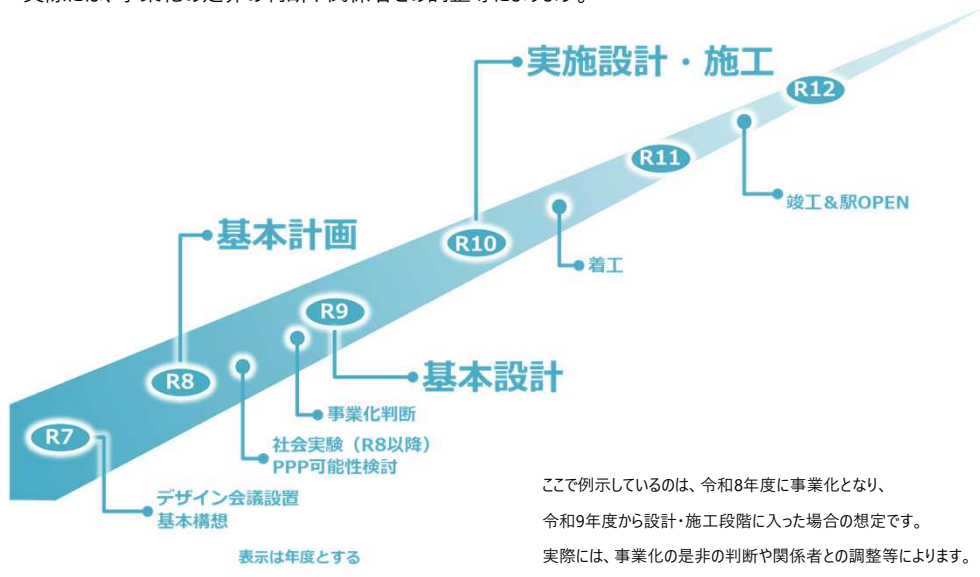
今後「#むやるんじょ」をキーワードに、デジタル上でも情報発信を行い、人や活動、まちの魅力をつないでいきます。

■各エリアの具体的な取組み

№	取組み	概要	短期 (~5年)	中期 (~10年)	長期 (10年~)
①	まちのコアと新たな拠点づくり	駅や交通広場、カフェ・本・学びを集めた交流機能の整備により、駅及び駅に隣接する場所をつどい、つなぎ、そだてるシーンの象徴となる場にしていきます。	●	●	●
②	民間活力を導入した駅前拠点づくり	民間事業者等による宿泊施設等の都市機能・サービス施設等が集積する拠点づくりの実現に向け、PPPなど、サウンディング調査等から取組みを進めます。	●	●	●
③	2つの都市軸の空間再編・機能強化	車線再編による歩行空間の拡張や歩きやすい歩行者空間の創出、まちなかキャンパスや屋台村の展開、社会実験やほこみち等を活用した道路・公園の有効活用により、日常的な滞在と交流が生まれるウォーカブルなまちなか空間を形成します。	●	●	●
④	リノベーションまちづくり推進事業	空き家や空き地などの既存ストックを活用し、飲食・物販などのチャレンジショップの展開等を通じて、小さな取組みから新たな賑わいを創出するとともに、地域で活動するプレイヤーを育てます。	●	●	●
⑤	港周辺の利活用	谷通りと美奈登橋との接続、撫養港の港湾施設を生かした水上交通の活性化や空き家・倉庫等のリノベーションを促すなど、本エリアを「海の玄関口」として、新たな賑わいを創出します。	●	●	●
⑥	撫養川沿い（ウォーターフロント）の水辺空間の利活用	鳴門駅から文化会館周辺をつなぐ撫養川沿いの水辺空間を市民の日常利用を支える身近な水辺として活用を図りつつ、河川空間のオープン化や遊歩道・浮桟橋の改修、マルシェ等の公民連携事業などを進め、新たな憩いと交流を生み出します。	●	●	●
⑦	文化会館・こども未来館周辺の再整備（令和9年開業予定）	文化・こども・学びの賑わい交流施設として再整備を図ります。年齢・立場を問わず、市民が思い思いの時間を過ごす中で、新たな発見や交流、成長を促す場にしていきます。	●	●	
⑧	計画的な駐車場の確保	車で訪れる人が気軽にまちなかを利用できるよう、停めやすく分かりやすい駐車場の確保を進めます。フリッジパーキングの手法等も参考にしながら、歩いて回りやすい環境をつくり、まちなかでの滞在や賑わいにつなげていきます。	●	●	●
⑨	安全・安心のまちづくり	駅周辺の耐震・対津波化を図ることにより、大規模災害時にも都市の機能を維持し、観光客など多様な人々の安全も確保する防災拠点の役割を担います。	●	●	●
⑩	地域経済循環の取組み	当エリアで出店する人に対する支援や、買い物時のポイント還元等の経済施策を通じて、店を出したくなるまちづくり、まちなかの人々が楽しみながら地域内でお金が循環する仕組みづくりに取組み、プレイヤーを増やし、まちをそだてます。	●	●	

■まちのコア整備に向けたロードマップ

・ここで例示しているのは、令和8年度に事業化となり、令和9年度から設計・施工段階に入った場合の想定です。実際には、事業化の是非の判断や関係者との調整等によります。



■実現化に向けた体制

・鳴門市まちづくりデザイン会議を中心に、様々な主体が参画し、連携と対話を重ねながらまちづくりの方策や取組みを検討し、本ビジョンの実現を目指します。

